

山上集落「集落営農ビジョン」

作成日：令和 2 年 3 月 3 日
 修正日： 年 月 日

市町村名	八頭町	組織名	農事組合法人 やまのうえ	
1 地区の範囲 八頭郡八頭町山上地区及びその周辺地区				
2 地区の概要				
水田面積	24.3ha	主な水田栽培作物	水稻・ハトムギ	農家数 30戸
認定農業者数	2 経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	1 経営体	
3 組織の概要				
設立時期（規約等の制定日）			平成18年 5月 7日	構成農家数 35戸 (地区外含む)
組織形態（該当形態に○を記入） <input checked="" type="checkbox"/> 共同利用型 ・ 作業受託型 <input checked="" type="checkbox"/> 協業経協営型				
4 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標				
【項目】		【現状】		【目標】 令和4年度
農地の集積	集積面積 A	16.4ha		18.3ha
	対象水田面積 B	23.5ha		23.5ha
	集積率 A/B	70%		78%
	地区外集積面積 C	1.2ha		1.5ha
	経営面積 A+C	17.6ha		19.8ha
世代交代への取組				
新規就農者の活動参画				
5 添付資料 集積状況一覧（別表1、2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等）				
注1）目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。 2）経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表1、2）により作成すること。				

I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

地域の農地を守ることを目的とし平成 18 年 5 月に「農事組合法人やまのうえ」を設立して、1 農家分を除いて地区の農地の維持管理を行っています。

農地中間管理事業を活用し前記の未加入農家分を除いた全ての農地（果樹園は除く）を集積しました。現在、大区画再基盤整備計画を進めており、それを一つの契機として未加入の 1 農家を含め隣接集落からの希望があれば積極的に利用集積を行う予定です。

2 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

水稲については保有米の関係もありコシヒカリ・きぬむすめを作付けし JA への出荷もします。ただ、収益性の観点から強力（酒米）・特栽きぬむすめ（八頭米）・吟おうみ（酒蔵との加工契約米）に重きを置いた作付を行います。また、SGS（飼料用米）は施設利用料がほとんど掛らないため、乾燥調製施設を持たない当法人にとっては経費の節減に打って付けの品目であり、重点的に拡大を考えている作目です。

水稲以外ではハトムギ・飼料用トウモロコシの要望も強く、作付可能な面積が確保できる範囲内で積極的に作付します。また、白ネギについては一般に言う農閑期の換金作物および組合員の就労の場の確保という考えで可能な範囲内で取り組みます。

3 農業用機械施設の効率利用

法人として当面必要な機械・器具は年数を掛けて整備し、組合員自己所有の機械は順次処分し組合の機械利用促進を図ってきました。

しかし、その中で田植機は現在 4 条植えが個人所有も含め 3 台であり、いずれも耐用年数も過ぎ、かつ将来に向けて大区画基盤再整備を行う予定がある中、6 条田植機を導入し効率的に作付面積をカバーする必要性が生じております。

また、現在法人育苗を 2 千数百枚実施しておりますが、組合員そのもの高齢化もあり出役者が年々減少してきており大きな負担となっております。また、苗を運んで田植そのものを年々その負担が大きくなっており、その育苗枚数を減らしかつ労働軽減の方策として鉄コート直播栽培があり、その栽培方法が適用出来る品種には導入・拡大する必要もあります。

水稲の本田病害虫防除の点では人力による動噴散布もあるが健康面および体力面で問題が有ります。また、無人ヘリによる外部委託も行っていますが「適期防除がなかなか出来ず防除価が低い」「散布コストが非常に高い」といった問題点も有ります。更には、将来の大区画基盤再整備により、1 圃場の面積が大きくなり、今までのパイプダスターによる人力防除が不可能となります。この対策として、法人でドローンを導入し品種毎の適期防除行うことで品質向上、労力の軽減および経費の節減を図り、組合員の所得向上を図ります。

当法人は水稲以外にハトムギの栽培にも取り組んでおりますが、有効な除草剤が少なく雑草対策に問題を抱えております。現在はカルチによる中耕および培土を行っておりますが、スピードが遅く、面積が多いため雑草の生育スピードに追いつかず雑草に負けて収量が確保できないほ場も多々発生しております。この対策としては、中耕ディスクによる培土をすることでカルチの 2 倍以上のスピードで培土作業が出来、かつ中耕と培土の作業が 1 度で出来、雑草に負けない生育が確保出来、収穫量も確保出来、納品業者の要望に応えることが出来ます。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

法人の組合員家族の中に具体的に法人を継いで行くという確固たる意識を持った後継者が見当たらない中、他地域ではあるが農業をやりたいという青年が見つかり、県の各種研修事業を活用した後、平成 30 年 6 月より後継者候補として 1 名を雇用しました。当面は従業員という形ではあるものの、栽培技術面・経営面において時間は掛るでしょうがじっくりと育成し、最終的には法人の後継者として育成する方針です。ただ、将来的な規模を想定すると、あと 1 人か 2 人は何らかの形で育成する必要があると考えております。

5 経営多角化の方針・具体策

中間管理事業関連の大区画基盤整備事業を行う中で、高収益作物の取り組み強化が必須で、当法人としては白ネギの取り組み強化とアスパラガスの導入を考えております。また、水田利用集積も隣接集落へ進んでいくことも想定され、それに関しては SGS の取り組みを強化し、対応します。

6 次産業等への取り組みは現在の所考えておりません。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月	本事業による 導入機械に○
田植機 除草剤散布機 箱施用剤散布機 鉄コーティング 用播種機	6条	1式	4,602,400 (税込)	令和2年3月	○
中耕ディスク	3条 30PS以上	1台	748,000 (税込)	令和2年6月	○
ドローン	1台/10分 4m幅散布	1台	2,035,000 (税込)	令和2年7月	○